

猿 橋
小学校

瑛玖良

瑛玖良校は明治期における
猿橋小の旧名。切磋琢磨の
意が込められている。

失敗を教訓に

校長 磯部 裕之

「暑さ寒さも彼岸まで」とはよく言ったもので、秋分の日を境によりやく過ごしやすくなりました。さて、先日閉幕となった世界陸上東京大会では、数々の名場面名シーンがありました。私が特に心に残ったのは、110mハードルに出場した村竹ラシッド選手の、数日たった後でのインタビューです。村竹選手の決勝での記録は13秒18で、5位入賞という立派なものでした。しかし、今大会、メダル獲得に向けて揺るぎない自信をもって決勝に臨んだ村竹選手のレース直後のインタビューは、涙ながらに発した「何が足りなかったんだろうな」という言葉に悔しさがにじみ出ていました。

数日後の別のニュース番組でのインタビューで、「揺るぎない自信」はどこからくるものだったのかという質問に対して、村竹選手は、「世界選手権やオリンピックでの大体のタイムは自分の中で分かっていて、今回、メダルを取れるだけの根拠は積み重ねてきました」と答えました。

「ただ、本番では、今まで積み重ねてきた練習や技術に頼ればいいのに、メダルへの欲という感情的な部分に任せてしまったんです」と冷静に自分の心理状況を振り返っていました。東京開催ということで、日本選手には大歓声が送られていましたが、その中でも、冷静にレースを展開しなくてはならない、そのことを、23歳の村竹選手は分析し、次の大会を見据えているようでした。



宇宙飛行士の若田光一さんがこんな言葉を述べています。

「自分の力がどこにあるのか追求してほしい。失敗してもそれを教訓にしてほしい」
そうなのです。何か一つのことに挑戦し追い求めた時に、成し遂げられることもあれば、大きな挫折を味わうこともある。でも若田さんは、たとえ失敗してもそれを教訓にしてほしいと話していました。村竹ラシッド選手の、悔しさを乗り越えようとするその前向きな姿勢は見えてすがすがしいものに感じました。

秋は、何かに一生懸命取り組むにはよい季節です。夏休みの間に「こんなこと、がんばったよ」という話が子どもたちからもたくさん聞かれました。水泳や空手、ピアノなど、いろいろな大会に参加した子どもたちもたくさんいたようです。これからは、ますますよい季節になります。まずは、自分が思い切り挑戦したいものを見つけて、取り組んでみてほしいと思います。そして、思うような結果が出なくても、村竹選手のように、さらに次に向けて挑戦していく強い心を育ててほしいと思います。